

令和3年度第1回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和3年5月13日（木）14：00～16：30

場 所：Web（Zoom）会議のため、各施設にて

出席者：7名

仲宗根るみ（代理：宮城郁美 北部地区医師会病院）、傳道聡子（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、金城美奈子（県立宮古病院）、眞喜志好枝（県立八重山病院）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、

陪席者：4名 奥平藤也（県立中部病院）、糸数真理子（那覇市立病院）有賀拓郎（琉球大学病院）、石川千穂（琉球大学病院事務）

欠席者：3名 樋口美智子（沖縄国際大学）、島袋百代（ハソキョウジヤハソ沖縄アフェリエイト）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）

*冒頭、新年度で新しい委員も加わったため、自己紹介が行われた

【報告事項】

1. 令和2年度第4回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨
資料1に基づき、大久保委員より、令和2年度第4回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。
2. がん患者ゆんたく会（1～3月）
令和2年1～3月のゆんたく会開催状況について報告があり、県立中部病院、那覇市立病院からは新型コロナの影響では各月とも開催なしとの報告があった。
琉大病院では、先着10名と人数制限を設け、1月5日のみ開催があった。参加者の近況報告を中心にフリートークが行われたが、一部参加者に発言が偏ってしまうという反省点があった。次回以降、皆さんが平等にお話しできるように調整したいとのことだった。近況として、県立中部病院では、5月に会議室を予約し調整していたが、県の状況が変わり、開催は振り出しに戻ったとのことだった。那覇市立病院でも、現状、開催の目途はたっていないとのことだった。宮古病院と八重山病院は、本年度は、今のところ開催未定。
3. がん相談件数（1～3月月）
資料3-1～3-6に基づき、令和3年1～3月の各拠点病院のがん相談件数について報

告があった。

北部地区医師会病院は、報告者が離席し、紙面報告となった。

県立中部病院では、1月はゲノムや不安・精神的苦痛、2月は傷病手当金について、3月は在宅医療や介護保険に関する相談が主だった。また、院外からはひと月に2〜3件程度で、セカンドオピニオンや転院に関する相談が、家族から多くあった。院内は、ランマークや輸血をやめて在宅に移行する際、家族や本人の不安を取り除きながら主治医と連携することに関する相談が何件かあった。

那覇市立病院では、2月は新型コロナウイルスの影響で外来に制限がかかり、件数が少し減ったとのことだった。どの月も院外からは1〜2件だった。相談の内容としては、在宅医療やホスピス・緩和ケアに関する事、不安や精神的苦痛に関する相談が主だった。電話での相談が増えており、時間も60分以上を要することもあるので、電話で長くなる時は、次回対面での相談を促したりもしているとのことだった。

宮古病院からも、相談件数の報告に続き、前年度の相談員からは、担当医からの紹介も少しずつ増えているが、泌尿器科や耳鼻科等からは介入依頼はまだまだなので、がん相談支援センターの周知も行っていきたいとのことだった。

八重山病院からは、前任者から、1月はゲノムに関する相談が6件で、やや増加傾向との報告があったとのことだった。

琉大病院では、3月が他月に比べると件数が増え、担当医が変わる時期ということも原因なのか、ホスピスや在宅療養の調整依頼が多かったとのことだった。大久保委員から、外来患者さんの在宅療養の調整がここ5年で確実に増えているのだが、地域の緩和ケア実施医療機関につなげた診療加算の取得状況（外来がん患者在宅連携指導料）がわかれば教えてほしいと、確認があった。那覇市立病院からは、在宅にはつなぐのだが、緩和ケア病棟の申し込みをしながら在宅の訪問看護の調整を行うことが多く、これまでに2〜3件くらいしか結びついていないとのことだった。直接訪問診療につなげることに関して、今後も情報共有していければとのことだった。

4. 域統括相談支援センター活動報告

地域統括相談支援センターの新しい事務担当者から自己紹介があった。活動報告については紙面報告となった。

5. がん相談支援センターの広報

資料5に基づき、がん相談支援センターの広報の報告があった。3月の依頼から5月上旬までの間に、4回の掲載依頼中、3件掲載があった。掲載日当日は相談依頼が増えるので、引き続き広報を行っていく。

6. PDCA チェックリスト

資料6に基づき、各病院で開催された相互評価訪問に関する報告があった。中部病院においては、62項目186点満点中、152点であった。指標40番の「多職種を配置している」という部分に関して、参加者から、院内で多職種と連携を取るなど、評価基準を実務的な評価指標にできればという意見があったとのことだった。指標44の「がんに関する図書」に関しては、エビデンスレベルやガイドラインの根拠等、正確な情報の判断基準を情報提供・相談支援部会で明文化したものを作成してはどうかとの意見もあったようだった。那覇市立病院では、186点中150点で、概ね自己評価していたような評価となった。項目3「地域の患者に対しての周知に関する取り組み」に関しては、地域の出前講座が出来なかったこともあり、自己評価3点から2点へと訂正された。参加者からは、以前に比べると相談窓口への同線もわかりやすくなった等の意見も頂けたとのことだった。増田委員より、今後の相互訪問について、以下について提案があり承認された。

- ①今年度からWEB開催の検討も含めて、6病院で開催すること。
- ②個別の医療機関で改善点を自覚した上で、県全体で均てん化を図ること。
- ③病院長、副病院長に立ち会ってもらい、病院全体、県全体で取り組まなくてはならないS項目を重点的にチェックすること。

7. 就労支援研修会の実地について

資料7に基づき、大久保委員から、オンライン開催の就労支援研修会について報告があった。就労支援、各病院での具体的な取り組み、療養両立支援指導料等、幅広い内容の意見交換・情報発信ができたとのことだった。研修内容に関する参加者の満足度は非常に高かったようだった。

【協議事項】

1. 部会委員及び部会長の選定について

資料8に基づき、大久保委員より、これまでの委員選任の経緯説明と、小児がんに関わる相談員や拠点以外の専門病院等から委員を新たに加えることについて、何か意見があるか確認があった。仲宗根委員から、がん相談の状況等についても意見交換もできるので、可能であれば非拠点からも加わって頂ければとの発言があった。就労支援やゲノム等に組み込んでいく専門病院の中から、事務局の方で検討し、依頼するということが承認された。部会長の選任については、候補者に検討頂き、次回改めて審議することとなった。

2. 令和3年度部会計画(各施策)

(1)「相談支援と情報提供」分野について

追加資料に基づき、沖縄県がん診療連携協議会議長あてに提出された要望書につい

て、増田委員から報告があった。要望内容から、情報提供・相談支援部会に直接関係している、1-①～2-③についての理解が求められた上で、相談支援と情報提供分野に関するロジックモデルについて提案があり、患者や家族が医療者から十分な情報を得られているためにはどのようにしたら良いか、また、各病院のがん患者さんが確実に相談支援センターを訪問するためにはどのようにしたら良いかについて、具体的な施策について検討された。相談支援センターの存在は知ってはいても、実際には訪問していない患者さんもいることや、院内での相談支援センターの周知不足についての問題が挙げられた。増田委員より、相談支援センターに立ち寄ってもらうための仕組みづくりについて、各病院で、今までやってうまくいったことや失敗したことをとりまとめ、次回以降の部会で審議するのはどうか、との提案があった。また、大久保委員より、今年度の事業計画に関して、相談支援センターの活用促進についての検討や、オンライン相談の整備、6施設での相互評価訪問等の提案があり、承認された。(2)「がん患者等の就労を含めた社会的な問題」分野と(3)「がんの教育・普及啓発」分野については、時間の都合上、次回以降の審議となった。

その他

(1) 次回開催について

令和3年7月15日(木)に開催することとなった。Webでの開催を予定。